

## 横浜市におけるタミフル耐性インフルエンザウイルスの検出について

### 感染症の監視体制

インフルエンザは、感染症法の5類定点把握疾患に定められており、法に基づき、全国的に、感染症発生動向調査による監視(サーベイランス)が行われています。

横浜市では、衛生研究所を感染症情報センターと定め、毎週、決められた小児科および内科の患者定点医療機関から、患者の発生数の報告を受け、国に報告するとともに、そのデータを解析して公表しています。一方、決められた病原体定点医療機関(患者定点医療機関の約1割程度)からは、患者の検体が、定期的に、地方衛生研究所に搬入され、インフルエンザウイルスについての検査が行われます。

さらに小中学校等で学級閉鎖や学年閉鎖が起きた時には、各区福祉保健センターの協力を得て、うがい液の培養検査を実施しています。

### 今回の経過

横浜市衛生研究所では、感染症発生動向調査の一環として、収集された検体からインフルエンザウイルスを分離するとともに、これらのウイルスについて遺伝子解析を行い、ワクチン株との一致率や薬剤耐性等について情報提供しています。

今シーズン、同一区の、同時期(1月28日に採取)の、同一家族ではない検体から、タミフル耐性株を5例検出したため、小地域における流行があったと考え、医療機関に注意を喚起するとともに、監視体制を強化し、観察を続けました。その後は、市内からのタミフル耐性インフルエンザウイルスの検出は認められず、流行は局地的なものにとどまり、終息したと考えられます。

### Q & A

Q 横浜市で、タミフルが効かないインフルエンザ(タミフル耐性インフルエンザ)の集団発生があったのですか。

A タミフル耐性インフルエンザウイルスによる小地域内での一時的な流行を認めましたが、感染の拡大は見られませんでした。

Q タミフルが効かないと、インフルエンザは治らないのですか。

A 一般に、インフルエンザの薬物治療では、ノイラミニダーゼ阻害薬が使われることが多いようです。耐性ウイルスには、ノイラミニダーゼ阻害薬のうちタミフル(経口薬)は効きませんが、ほかの薬剤は効果があり、たとえばリレンザ(吸入薬)を使うことができます。

Q 今回のタミフル耐性インフルエンザウイルスは、新型インフルエンザウイルスとは違うのですか。

A 新型インフルエンザではありません。今回、横浜市衛生研究所で検出されたタミフル耐性インフルエンザウイルスは、この冬の流行の主流であるAソ連型ウイルスが部分的に変異したものです。感染力は、通常のインフルエンザと変わりません。

Q タミフルが効かないために、症状が重くなるのですか。

A タミフル耐性インフルエンザウイルスに感染しても、症状は、通常のインフルエンザウイルスに感染したときと変わりません。今回の5名の患者さんも、入院することもなく、軽快しております。

Q タミフルが効かないインフルエンザウイルスが見られたのは、日本で初めてなのですか。

A タミフル耐性インフルエンザウイルスの検出は、国内で初めてではありません。横浜市衛生研究所でも過去に検出されています。

ただ、一定の地域内で流行しているタミフル耐性インフルエンザウイルスを同時に検出したのは、国内で最初と考えられます。

Q どういうことに注意すればいいのですか。

A タミフル内服中も、ウイルスが体外に排出されます。タミフル耐性インフルエンザウイルスの流行を防ぐためには、症状が改善しても、タミフル内服中(一般的には5日間)は、学校や会社を休む必要があります。今回は、小規模流行で終息し、感染の拡大は見られませんでした。タミフル耐性インフルエンザウイルスは人から人に感染し、流行を起こし得ることがわかりました。  
予防としては、通常のインフルエンザと変わりません。  
ワクチン接種のほか、外出時のマスク、帰宅時のうがい・手洗いを心がけるとともに、栄養バランスや十分な睡眠など、規則正しい生活に努めましょう。  
治療や、登校・入社などの外出については、主治医に相談し、その指示に従いましょう。

Q インフルエンザのワクチンは、タミフル耐性インフルエンザウイルスに効果がありますか。

A インフルエンザワクチンは、タミフル耐性ウイルスにも効果があります。  
インフルエンザワクチンは、感染の初期段階で働くHA(赤血球凝集素)の型に合わせて身体に抗体をつくらせ、ウイルスの細胞への進入を阻止します。いったん細胞内に入り込んだウイルスに対する治療においては、ノイラミニダーゼ阻害薬(タミフル等)が、細胞内で増殖したウイルスが外へ出ていかないようにNA(ノイラミニダーゼ)の働きをブロックします。

Q WHOに報告されたという新聞記事を見ましたが、それは大変なことなのですか。

A 全国の地方衛生研究所は感染症発生動向調査における病原体の検査結果については、国立感染症研究所に報告しています。今回、横浜市衛生研究所も、解析結果を直ちに国立感染症研究所に報告しましたが、今シーズン国立感染症研究所からWHOに報告された耐性株が横浜市内の5例だけであったことが、後に判明しました。  
WHOでは、今シーズン、ヨーロッパ等でタミフル耐性インフルエンザウイルスが多く報告されていることより、耐性株の世界的な拡大を懸念し、WHOインフルエンザネットワークを中心とした世界的な抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスを通し、毎週、耐性株の発生動向の報告を求めています。

WHOのタミフル耐性インフルエンザウイルスの集計は、こちらでご覧になれます。(英語)

[http://www.who.int/csr/disease/influenza/h1n1\\_table/en/index.html](http://www.who.int/csr/disease/influenza/h1n1_table/en/index.html)

Q&A(英語)

[http://www.who.int/csr/disease/influenza/oseltamivir\\_faqs/en/index.html](http://www.who.int/csr/disease/influenza/oseltamivir_faqs/en/index.html)

ユーロサーベイランス(英語)

[http://www.eiss.org/documents/antiviral/EISS\\_VIRGIL\\_antiviral\\_resistance\\_H1N1\\_update\\_20-02-2008\\_14-36.pdf](http://www.eiss.org/documents/antiviral/EISS_VIRGIL_antiviral_resistance_H1N1_update_20-02-2008_14-36.pdf)

ノルウェー国立公衆衛生研究所(英語)

[http://www.fhi.no/eway/default.aspx?pid=233&trq=MainLeft\\_5669&MainLeft\\_5669=5544:67464::0:5667:2::0:0](http://www.fhi.no/eway/default.aspx?pid=233&trq=MainLeft_5669&MainLeft_5669=5544:67464::0:5667:2::0:0)

横浜市衛生研究所のホームページでは、タミフル耐性株についての情報も流行情報に載せています。

横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その13) (平成20年2月14日)

横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その14) (平成20年2月22日)

<参考>

インフルエンザについて

インフルエンザワクチンについて

(平成20年3月5日 改訂)

(平成20年3月13日 改変)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (TEL:754-9816)  
検査研究課ウイルス担当 (TEL:754-9804)